

ロタウイルス感染症の予防接種について

※ロタウイルスワクチンの予診票は3枚お送りしていますが、ロタリックス(1価)を接種する場合は、予診票が1枚不要となりますので、廃棄処分してください。

ロタウイルス感染症について

ロタウイルスによる胃腸炎は、衛生状態に関わりなく発症する感染症です。この感染症により世界では、5歳未満の小児が年間約50万人死亡しているとされ、そのうち80%以上が発展途上国で発生しています。先進国では、死亡例は少なくなっていますが、嘔吐・下痢に伴う脱水やけいれん、腎不全、脳症などの合併症で入院のリスクが高く、重症急性胃腸炎に関する入院の原因として、ロタウイルスが最も多いといわれています。

ロタウイルスワクチンについて

ワクチンには、ヒトロタウイルスを弱毒化した経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン(ロタリックス)と、ヒトウシロタウイルス再集合体を含む経口弱毒生ワクチンの5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン(ロタテック)の2種類があります。いずれも、ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防する効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なりますので、他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して選択します。なお、途中からワクチンの種類を変更することは原則できませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

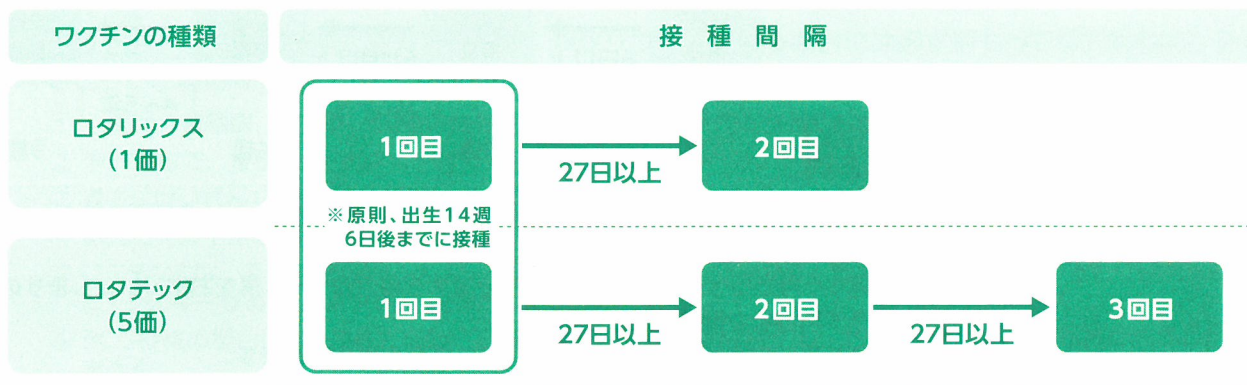
副反応

嘔吐、下痢などの胃腸炎症状が5%未満のお子様で見られますが、いずれも軽症で特に治療を必要とすることはあまりありません。しかしながら、接種後1~2週間は腸重積症の発症に特に注意が必要です。重大な副反応としては、まれにアナフィラキシーの報告があります。

対象者及び接種スケジュールについて

製品名	接種対象者	回数	注意(標準的な接種時期)
ロタリックス(1価)	出生6週0日後から24週0日後までの間	2回 経口接種	初回接種は生後2か月に至った日から、出生14週6日後までの間
ロタテック(5価)	出生6週0日後から32週0日後までの間	3回 経口接種	

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。
※2回目以降の接種は、ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。



※原則、接種するワクチンは2回もしくは3回とも同じワクチンを使用することとされています。里帰り出産等の事情により途中で接種医療機関が変わる場合は、使用していたワクチンについて、必ず医師に報告してください。

※接種を行う際に、お子様がワクチンを吐いたり、全て飲めなかった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

※接種後、便の中にワクチンに入っているウイルスが含まれることがあるため、2週間位の間は、おむつ交換した後は丁寧に手洗いをするなど注意してください。

※「ぐったりして顔色が悪い」、「お腹が膨れる」、「繰り返す不機嫌」、「嘔吐する」、「血便が出る」などの症状がひとつでもみられた場合や、いつもと様子が違う場合は、速やかに接種した医療機関を受診してください。

※出生15週0日後以降の初回接種については、週齢が高くなるにつれ、自然発症による腸重積症のリスクが増加するため、お勧めできません。出生14週6日後までに初回接種することをお勧めします(出生15週0日後以降に初回接種を希望する場合は医師とよく相談してください)。